



## 年頭ご挨拶

富士通株式会社 代表取締役社長

黒川博昭

新年を迎え一言ご挨拶を申し上げます。皆様にとりまして、新しい年が希望に満ちた年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年は、SARS、イラク戦争などの影響もありましたが、日本全体の景気動向は、明るい兆しが見られるようになりました。しかし、当社をとりまく環境は、まだ、依然として厳しいものであると判断せざるを得ない状況です。

一方、私たちの生活のあらゆるところにITが浸透し、いつでも、どこでも、誰とでも、ネットワークを通して情報交換のできるユビキタス社会が到来しつつあるなど、IT業界は、今後の成長が最も期待される分野でもあります。

このような状況におきまして、富士通は、IT産業のリーダとして、強いテクノロジーをベースに、品質の高いプロダクト、サービスによるトータルソリューションを継続して提供してまいります。さらに、ITサービスのサプライヤとしてではなく、お客様の経営や事業のパートナーになることを目指して努めていきます。また、お客様のパートナーとしてご信頼いただくために、「お客様起点」をベースに「お客様から見た品質、納期を守る」、「お客様に合わせてスピードを上げる」を行動方針として邁進していきます。

ここで、当社の更なる収益改善に向けての事業戦略の一端をご紹介させていただきます。

本業としての事業収益力の強化を目指し、本年も「ものづくりの強化」と「グローバル化」に取り組みます。富士通の強みは、いままでのものづくりの経験で作上げてきた良質のハード（プラットフォーム）・ソフト製品にあります。これら製品の上に強いサービスを組み上げていくことが富士通の特徴を発揮でき、富士通らしい製品を提供できるとのコンセプトのもとに「ものづくり強化」を推進していきます。

また、グローバル展開におきましても、信頼できるプラットフォーム、あるいはプラットフォームを軸にしたソリューションをもって海外に展開していきます。

具体的には、次世代ITインフラ“TRIOLE”を基盤とし、その上でソフト・サービスを組み上げる、あるいは90 nm CMOS技術などの最先端技術を採用した半導体製品をベースにしたソリューション、経営問題にまで踏みこんだコンサルティング要素を取り入れたソリューションなどを提供してまいります。

さらに、近い将来のユビキタス社会に備え、最先端技術開発や、「e-Japan戦略」政策にも富士通グループをあげて積極的に取り組んでいきます。

例えば、次世代の情報システムを見据えての、ビジネス系を含めたグリッドコンピューティング技術、自律制御を可能とするオーガニックコンピューティング技術などの最先端技術にも取り組んでいきます。また、「e-Japan戦略」におきましては、「食」、「知」の分野での、無線タグ（RFID）を活用した食品の品質管理、空港での手荷物追跡システム、図書館の蔵書管理システム、さらに、「医療」分野では、電子カルテシステム、CT画像を三次元映像化するシステムなどを積極的に進めます。そして、「安心」な社会の実現を目指し、指紋、声紋、顔、手のひらなどの特徴から個人を識別するバイオメトリクス認証技術の研究を進め、高いセキュリティの実現に取り組めます。

このように、富士通グループは、今後も、「総合力」を最大限に生かして、お客様に、品質の高いプロダクト、サービスを提供してまいります。さらに、環境活動、ユニバーサルデザイン活動などを通してお客様や社会に信頼されるよう自己革新を図ってまいります。

何卒、倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後に、富士通製品・サービスをご愛顧いただきますとともに、「雑誌FUJITSU」のご愛読も賜りますようお願い申し上げます。